

若いけど！

Vol. 20 / 2018年10月29日発行

おばちゃん通信

発行：おばたさおり/横須賀市池上2-14-10 田中ビル01/TEL:080-1161-4031



平成29年度一般会計の決算額は、歳入で1473億144万円、歳出は1441億95万円でした。歳出における義務的経費のうち、社会保障にかかる扶助費は年々増加。昨年度は子ども・子育て支援給付費の増などにより、10億9725万円増加し、扶助費の決算額は351億7013万4千円となりました。

9月定例議会での一般報告や補正予算等を紹介します。

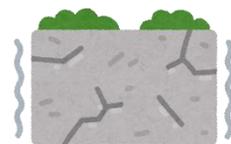
【福祉部】横須賀市内の京急バスで使えるはつらつシニアパスの発行について。平成30年3月定例議会でシニアパス事業の見直しに対する付帯決議の議決を受け、平成30年12月から20,100円のシニアパスに、市が1,000円負担し、販売価格が19,100円になります。

【健康部】うわまち病院の建替えについて。市立2病院体制を維持し、うわまち病院は移転建替の方針が出されました。移転の理由は都市計画上の開発行為の同意が困難なこと、現地敷地内の一部が土砂災害警戒区域に指定されていて、現在土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）の指定作業が行われていることなどが挙げられています。移転先については今年度中に決定するようです。

【総務部・福祉部】障害者ワークステーションよこすかの導入について。市役所内に知的障害者及び精神障害者の方が働ける職場を設置するそうです。開設は平成31年5月1日より。庁内で職員が行っている事務を集約し、ジョブコーチの支援の下、障害者スタッフ（非常勤職員3名）が事務作業を行うとのこと。広報よこすか1月号に採用募集記事が掲載予定です。

【土木部】（仮称）横須賀PAスマートインターチェンジの整備について。上りランプ側の測量、土地調査等は完了。下りランプは用地交渉に進展がなく、代替ルートも検討したものの、財政負担の大きさから断念。国土交通省への要望により、上りランプ側から先行整備が可能となりました。下りランプについては、今後も理解を得られるように調整していくそうです。

【市長室】地震等による倒壊を未然に防ぐため、「危険ブロック塀等緊急対策補助金」を創設。危険なブロック塀等撤去や、撤去後のフェンスや柵等設置工事に対する補助金のための補正予算が生まれ、可決されました。補助対象は平成30年6月18日以降実施の工事から平成31年度末までの工事です。



【消防局】救急対策の強化について。平成29年度、横須賀市域の救急出動は過去最多の23,894件。本年4月に新設した救急課において、新たな取り組みを開始。猛暑日が続いた7、8月には多数の救急要請に対応すべく、緊急的に消防局の各課職員で運用する日勤救急隊を2隊増やし、運用したそうです。また、熱中症等への事前対策の呼びかけなど予防救急普及啓発の充実や応急手当実施当事者に対するサポート体制も充実していくようです。

【一般質問】

今回は社会的養護推進計画、児童虐待の防止、総合相談窓口の設置、待機児童の解消について質問しました。

問：様々な理由で親元で暮らせない子どもたちが社会的養護下で育っている。国は里親委託を増やしていく方針だが、どのように里親を増やしていくのか。

答：里親制度を知ってもらうため市のホームページを更新。イベント時にチラシを配布するなど草の根的な活動を通して周知していく。

問：福岡市では里親委託にかかわるスタッフを増やし、市民啓発にも力を入れた。また兵庫県明石市では商業施設や駅前などに里親制度のカラーポスターを掲示している。わかりやすく、市民が目につく場所でのPRが大切ではないか。

答：いいご提言いただいたので検討していきたい。

問：横須賀にんしん SOS で妊娠の可能性のある段階から相談できる体制を周知すべきではないか。

答：横須賀にんしん SOS カードにその旨記載していきたい。

問：問い合わせフォームからだとにんしん SOS に直接相談ができないので、見直すべきではないか。

答：検討させていただく。

問：総合相談窓口では制度の狭間や複数の制度にまたがる人の相談にのる必要がある。総合相談には人材の育成も必要。人材育成の観点も含め、地域福祉の推進役としての役割を担っていくべき社会福祉協議会と共に、窓口の設置準備を進めてはどうか。



答：社会福祉協議会と市は、車の両輪として地域福祉を進めていくパートナーであると考えているので、今後ともに相談支援体制のあり方について検討していきたい。

問：相談窓口を設置しても、解決する資源やネットワークがなければ解決できない。

様々な人の意見を聞き、ネットワークの構築、社会資源の開発などもあわせて総合相談窓口の設置を行ってほしい。大阪府豊中市など、小学校区単位で福祉なんでも相談窓口を設置している。実際に社協と市がうまく協働しているそうした事例も参考にしてほしいと思うがいかがか。

答：個性ある地域コミュニティ、例えば学校単位でやってみる、行政センター単位など、様々な仕組みを考えていきたい。

問：待機児童の解消はいつ達成されるのか。

答：保育ニーズの高い地域や児童の年齢などにより待機児童の解消には至っていないが、一日も早い解消に向け努力していく。

問：静岡市のように待機児童だけを預かる「待機児童園」を本市でも設置してはいかがか。

答：待機児童解消は大きな課題だが、新たな施設を作るのは施設の確保や保育士の新規配置などで追加の費用がかかる。ゼロ歳児から2歳児の待機児童の解消については、既存の公立保育園の受け入れ人数の増加を含め、民間保育園や幼稚園などの協力も得ながら、様々な方法を検討していきたい。

おばたさおりプロフィール

1985年10月3日生まれ。平作小、池上中、横浜市立金沢高校卒業。UC L A政治学部卒業。学習塾、フリースペース勤務を経験。2015年横須賀市議会議員選挙にて5625票を得て、当選。会派：無所属みらい
移動事務所：080-1161-4031またはinfo@obatasori.com ブログも更新中です！